



TAKASHO DIGITEC CO., LTD.

光の演出で人の心を彩る



事業内容

光の演出で人の心を彩る

「今ある光の入れ替えでは無く、今暗いところに光を灯す」タカショーデジテックはこの目標を掲げて活動しています。「暗い場所に人は集まってこない」という考えから、暗い場所を減らすために光を灯し、街全体を明るくしたいと考えています。

① 屋外照明

昔、庭に光を入れるという感覚がなかったため、庭や玄関などが暗い家が多くありました。



家に帰ってきた後、庭が明るいとこのはとても安心するものです。そういう家を増やそうと庭を綺麗に彩る照明を製造しています。

② イルミネーション

様々な人が冬に楽しんでいるイルミネーション。そのLEDの製造だけでなく、見に行つて楽しいと思えるイベントの開催も行っています。



開催も行っていません。そうすることで街が綺麗に彩られ、明るくなります。

③ LEDライト

ショッピングモール内のお店の看板などに使用されているLEDサインは、訪れた人々がひと目で見てどんな店かわかるようになって



ています。看板が光っていると、人々にしっかりと見てもらうことができます。

④ デザイン

照明のデザインはもちろんのこと、他の会社とコラボして、ロゴデザインなども手がけています。



フエスタ・ルーチェ

ポルトヨーロッパで毎年行われているフエスタ・ルーチェは多くの人に楽しまれていきます。フエスタ・ルーチェがまだ開催されていない頃、ポルトヨーロッパは冬の間、暗くて寒いため、お客さんがあまり来なくて寂しい場所となっていました。ですが、タカショーデジテックによるイルミネーションの設置によって和歌山市の人気スポットとなりました。その設置にあたって樹木を傷つけないように心がけたり、矢印で道順を示してお客さんを誘導して人々を楽しませています。

環境問題に対しての考え

世間では近年SDGsが注目され、多くの人のSDGsに対する関心も高まっています。タカショーデジテックのSDGsに関する取り組みに「SDGsカードゲーム」というものがあります。

SDGsカードゲームは「少し前では当たり前だった大量生産に代わり、SDGsが意識され始めているが、生産者側がSDGsに詳しくなくては意味がない」という考えのもと、タカショーデジテックの全社員を対象に社会・環境・経済の3つの要素がどのように関わり合っているのかと社員が世の中の仕組みを学ぶために行われました。



タカショーデジテックは環境問題解決のために生産者の立場として、このゲームを通して新しい考え方を見つけ、新たな商品開発に繋げようと考えています。

街を明るくする取り組み



少子高齢化が進んでいる有田市の矢櫃地区では、半数近くが空き家となっており、暗い場所となっています。ということでタカショーデジテックは暗い場所に灯そうと空き家などをライトアップするという企画を打ち出しました。この企画を実行することで、矢櫃市への関心を高めてもらえるようになってきました。

ホームページには「DiGiSPOT」という今後の催しの予定や最近取り組んだ事業の写真などタカショーデジテックの魅力が詰まったページがございます！このデジタルブックを見て、気になった人はぜひ見てみてください！



タカショーデジテック 代表取締役社長
古澤良祐様